

# 家計ゲームを通じて、 消費生活や進路選択について 主体的に考える

池田 優子 Ikeda Yuko 広島県熊野町立熊野中学校 教諭

社会科を担当。「おもしろき こともなき世に おもしろく」をモットーに、社会科＝暗記という認識をひっくり返そうと生活に身近な題材やゲームを取り入れた授業実践に取り組む。

このコーナーでは、消費者教育の実践事例を紹介します。

## 家計ゲームを授業に導入したねらい

広島県熊野町立熊野中学校(以下、本校)では、3年生の社会科の授業で家計ゲーム(以下、ゲーム)を導入しています。

ゲームは某玩具メーカーのボードゲームを基に考えました。月25万円の収入から消費支出を引き、毎月のイベントカードで決まる臨時収入・支出を加え、半年間の貯蓄額を競います。これまでは公民的分野の経済の学習の導入でゲームを行い、生徒たちからの「面白かった」という感想で完結していました。

ところが、2015、16年と3年生の進路指導に携わり、生徒たちの金銭感覚の希薄化が気になり始めました。高等学校(以下、高校)の進学率が98%を超えている現在、高校進学が当たり前前、だから授業料も無償であると思っている生徒が少なくありません。本校でも、高校の授業料がいくらなのかを知らない(あるいは無償だと思っている)生徒が約3割いました。高校は当たり前に行ける場所ではなく、保護者に費用を負担してもらってこそ行ける場所です。これまで以上に主体的な学習意欲が必要なことに気づかせたいと、進学にかかる費用を把握できるようにゲームを修正しました。限られた収入の中で必要な支出かどうか判断する金銭感覚を育成すると同時に、自らの意思で進路選択をする大切さに気づき、自立の手掛かりにしてほしいと思っています。

## ゲームの具体的な内容

ゲーム実施前の授業の最後に、毎月の食費や光熱費、携帯電話代を家族に聞いてくる宿題を出し、班で電卓を1台持参するよう指示します。

### (1) 毎月の消費支出を決める

授業では班を両親、中3、中1の子どもがいる4人家族と設定します。宿題を基にメンバーで話し合っ、次の3点を決めていきます。

#### ①保険に加入するか

加入できる保険は自動車保険、生命保険、火災保険、地震保険です。すべてに加入すると大きな負担になりますが、ゲーム開始後は加入できないルールとしたため、価格を考慮したうえで自分たちに必要なものを選びます。自動車保険は+100円で自転車<sup>プラス</sup>特約を付けられます。本校の自転車通学路は非常に狭く、毎年接触事故が発生しているため、この補償はほとんどの班が付けました。火災保険には水災や地震による火災発生は補償しない保険もあります。そこで+500円で水災補償、地震保険が付けられるようにしました。2014年の広島市の土砂災害、2016年の熊本地震などを思い出しながら生徒たちは検討していました。将来保険を契約する際に保険会社任せではなく、自分で契約内容をよく調べなければ、保険金が支払われないという事態になりかねません。「熊野町には大きな川がないので水害補償は外そうか?」と相談していた班もありました。

## ②食費や光熱費をいくらにするか

2016年度までは食費は家庭で聞き取った内容を生徒間で発表して決めていましたが、各家庭の経済事情に配慮し、2017年度は食費を5万円(国産素材にこだわる)、4万円(肉は外国産、あとは国産)、3万円(産地にはこだわらない)から選べるように修正する予定です。

## ③通信費と教育費をいくらにするか

携帯電話を誰が持つか、インターネットは利用するか、塾に2人とも通わせるかを決めます。

### (2) イベントカードで臨時収入・支出が発生

①～③の3点を最初の10分間で決め、毎月の消費支出額を計算して家計簿シートに記入します。住宅ローンや税金、健康保険料を引いた月25万円の収入から、先ほど設定した消費支出を引きます。さらに毎月、各班でイベントカード(以下、カード)を1枚引きます。「ネットゲームで誤って課金。5万円払う」「父の会社が円高で輸出減となり業績不振。3万円のマイナス」など今後の経済の学習内容に関連するカードや「自転車で小学生をはねてしまう。自転車特約がなければ10万円払う」など保険に関するアクシデントが発生するカードがあります。カードで指示された臨時収入・支出を加えて、その月の貯蓄額を電卓で計算します。各班のカードを読み上げると、生徒の間から歓声や悲鳴が上がります、大変盛り上がります。

### (3) 1～2月には受験料等の支出も

1月は受験校を決めて受験料を支払います。私立と公立を併願した場合、2月には私立高校入学手続き金の7万円を支払います。多くの生徒が受験にかかる費用に驚き、いくつかの班は「公立1校しか受験させない」と言い始めます。「自分が子どもの立場なら、費用だけで突発的に進路選択の幅を狭められて納得できる? もし、病気や事故で公立入試に行けなかったら?」と尋ねると、各班で悩み、自分ならどうしたいか互いに話し始めます。そして進路については、保護者に将来の仕事まで見据えた選択だと説得できるだけの志望理由が必要なことに気づきます。

写真1 イベントカード

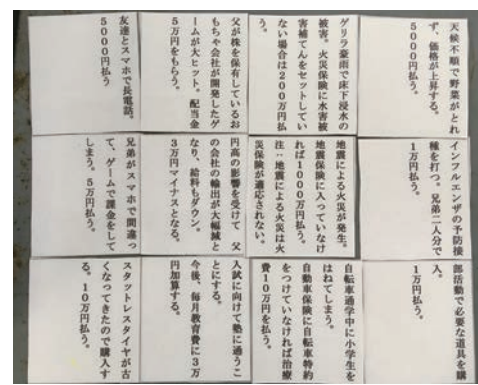


写真2 授業の様子

10～3月までの半年間で貯蓄総額を計算します。残り5分でゲームを振り返り、①どのようにお金を使うべきかと思ったか ②進学にかかる費用を見て、進路選択には何が大切かと思ったかをワークシートに記入します。



### (4) 「よく考えて」お金の大切さを実感

「こんなに毎月お金がかかっていると思わなかった」「親に感謝しようと思った」「本当に自分に必要かどうかよく考えてものを買ったり、少額でも毎月貯蓄しようと思った」といった感想の中で、印象に残ったのが次の感想です。

「このゲームはカードを引いても何も起こらないこともあれば、お金を一気に失う時もある。どんなに計画していてもその通りにはいかないので、後先考えずにお金を使うことがないようにしたい。進学にかかる費用は思っていた以上に高かった。だから進路選択をする際は『なんとなく』『他に行きたいところがないから』ではなく、きちんと考え抜いて決めていき、進学した以上“学び続ける”ことも大切だと思った」

### 生き方を主体的に考えられる人に

2017年3月公示の新学習指導要領では「主体的・対話的で深い学び」の充実が示されました。家族や友人と対話し、情報を基に自分たちで判断・選択する家計ゲームを通して、中学校卒業後も自分の生き方を主体的に考え、自立していく生徒を今後も育成していきたいです。